

第 64 回国連女性の地位委員会に際したアントニオ・グテーレス国連事務総長の声明
(2020 年 3 月 9 日)

第 64 回国連女性の地位委員会に参加できることを大変嬉しく思います。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、国連女性の地位委員会のセッション全体を延期し、本日 1 日のみの会合とせざるを得ないという異例の状況が起きていることについて、本当に心を痛めています。

世界中の活動家及び女性団体の方々は、私と同じようにがっかりされていることと思います。

しかし、私は心強く感じてもあります。なぜなら、私たちがジェンダー平等という目標達成のために、今後も変わらず尽力していくのだと理解しているからです。

私たちは皆、ジェンダー平等に関する、SDGs（持続可能な開発目標）ゴール 5 を達成することが至上命題であると理解しています。

これは、端的に申し上げて、正義の問題です。

リスボンのスラムで学生ボランティアとして、政治家としてのキャリアを通して、そして難民のための国連機関（注：国連難民高等弁務官事務所、UNHCR）のリーダーとして、私は常に、正義、平等、人権のために闘わなくてはならないという気持ちに突き動かされてきました。

事務総長として、私は世界中で圧倒的な不正義を目にしています。ジェンダー不平等と女性及び女兒に対する差別です。

ジェンダー平等は、本質的には力の問題です。

私たちは、未だに男性優位の文化が蔓延する男性優位の世界に生きています。そして何千年もの間、そうした世界に生きてきました。

何世紀にもわたる差別、根深い家父長制及び女性蔑視は、私たちの経済、政治システム及び企業において、ジェンダーの力関係に大きな格差を作り出してきました。

これを絶対に変えなければなりません。

北京宣言及び行動綱領採択から、今年で 25 年になります。

北京宣言及び行動綱領は、一体となって、ジェンダー平等及び女性のエンパワーメントのための最も包括的かつ革新的な、グローバルなアジェンダを定めるものです。

世界中の国々が時代の複雑な課題に対する解決策を探る中で、持続可能な開発目標の達成に向けて軌道に乗る1つの方法が、北京行動綱領の実施を加速させることです。

北京を振り返ると、感化された若手活動家の新たな世代が、世界中で、建設的な行動と恐れを知らないレジリエンスの精神を躍進させていることを、特に心強く思います。

そうした取組が大いに必要とされています。北京のビジョンは、まだ部分的にしか実現されていません。

女性議員の数はまだ男性の3分の1であり、女性の賃金は男性が1ドル稼いでいるところ77セントであり、無償ケア労働や家事労働は世界中でかたくなに女性のものとなってしまっています。

ジェンダー平等に向けた進捗が失速した地域や、逆行さえしている地域もあります。

女性を暴力から守る法律を後退させた国、市民社会スペースを制限した国、依然として女性を間接的に差別する経済政策及び移民政策を推し進めている国もあります。

性と生殖に関する健康のためのサービスに、女性全員がアクセスできるにはほど遠い状況です。

私たちは、押し戻しを押し戻さなければなりません。

友よ、

北京プロセスの重要な遺産は、動きを作ったことです。

過去25年の間に、女性たちによる動きが成長し、強化され、活気に満ち、国境を越え、多様化して、早急に根本的な変化を求めることで、遅々とした断片的な進捗に対し、ますます異議を唱えるようになりました。

こうした動きによって、ジェンダー平等が進められ、政府その他の有力な関係者による説明責任が求められています。

また、女性及び女児の権利を向上させ、それが全員にとっての経済的、社会的及び環境的正義と密接に結びついていることを示すため、連携してテーマ、部門及び政治的境界を越えた取組を行っています。

こうした動きは、異なる世界を作るための大胆で新たな選択肢を提示するものです。

例えば、アフリカにおける環境的正義を目指す若い女性たちの活動によって、採取産業及び持続不可能な消費・生産パターンによる影響に関心が集まりました。

そして、ラテンアメリカにおける Ni Una Menos 運動（注：2015 年にアルゼンチンで始まった女性への暴力に反対する運動）によって、階級や世代を越えた強い連携が構築され、女性及び女児に対する暴力への対策が求められるようになりました。

今こそ、女性の権利のために連携し団結するときです。

そうした連携の 1 つが、持続可能な開発目標達成のための行動の 10 年間にジェンダー平等に関して形ある成果を得るため、国連女性機関（UN Women）によって招集され、メキシコ及びフランスの政府によって共同開催される、平等を目指す全ての世代フォーラムです。

そのビジョンは明確です。政治生活、あらゆる生活領域における意思決定に、女性及び女児が平等に参加することです。

ここ、国連において、我々が模範を示すと決意しています。

今年 1 月、国連では、フルタイムの幹部級職員が男女 90 人ずつとなり、男女同数を達成しました。私が任期の初めに設定した目標を 2 年前倒しで達成したこととなり、今後全ての階層において男女同数を実現するためのロードマップもあります。

実現まで長くかかり過ぎたこの変化は、女性職員の平等な権利及び価値を認める必要不可欠なものであり、国連内において力関係を変える基本的な手段です。

また、私たちが仕える人々のために、効率性を高め、より大きな成果を上げることもあります。

本委員会は、世界中で強まっているジェンダー平等及び女性の権利に対する勢いを、更に活気づける機会です。

私たちを団結させるものに注目し、北京宣言及び行動綱領とその完全、効果的かつ加速的な実施をしっかりと再確認するためにこのセッションを利用していただくよう、お願いいたします。

女性の権利は人権であり、ジェンダー平等は持続可能な開発目標全ての中心をなすもので

あると、世界に明確なメッセージを送りましょう。

ありがとうございました。